

授業科目名	リーガル・コミュニケーション演習	期別	前期	授業形態	演習
担当者名	宇加治恭子	単位数	2	開講年次	3

授業科目の概要

法律実務家が事件を適切に処理する上でリーガル・コミュニケーションが不可欠であることを理解した上で、その基礎的な技術を、スキルプレイ、ロールプレイ、事例検討などを通じて学ぶ。その技術の中には、相談者および依頼者と適切に面接を行う技術、当事者から事実関係を適切に聴取してこれを整理する技術、相手方や裁判所等を説得する技術、事実関係や法律問題についての主張を書面により明らかにする技術等が含まれる。

到達目標

- (1) 実務家が事件を適切に処理する上で、リーガル・コミュニケーションの技術が不可欠であることを理解する。
 - (2) コミュニケーションへの配慮の欠如から、依頼者・関係者との間に紛争が生じ得ることを理解する。
 - (3) 弁護士として、相談者および依頼者から、適切に訴えの内容、事実関係を聴取して整理する。
 - (4) 弁護士として、相談者および依頼者に対し、適切な方法をもって法的アドバイスを行う。
 - (5) 当事者の代理人として、相手方への配慮をもって説得し、納得させる。
 - (6) 法律実務家として、場面に応じた適切な法的文書を作成する。
 - (7) 訴訟手続において、適切なコミュニケーションおよび交互尋問を行う。
 - (8) 弁護士として、被疑者・被告人と適切に接見を行う。
 - (9) 他の実務法律家（弁護士、裁判官、検察官）と適切に協議を行う。
- 上記各項目の重要性を理解し、リーガル・コミュニケーションの基礎的な技術を習得する。

成績評価基準および方法

成績評価は、授業中の質疑応答・受講態度（50%）、毎回作成する「振り返りシート」等の書面の内容（50%）を考慮して行う。定期試験は実施しない。

テキストおよび参考文献

具体的事件の資料なども提供するほか、参考資料を適宜指示ないし配布する。

参考書 日弁連法科大学院センター ローヤリング研究会編
「法科大学院におけるローヤリング教育の理論と実践」
（民事法研究会、2013年12月発行、4,500円＋税）
日弁連法科大学院センター ローヤリング研究会編
「法的交渉の技法と実践―問題解決の考え方と事件へのアプローチ―」
（民事法研究会、2016年8月発行、2,300円＋税）

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）

事前に配布する授業通信によって予習等の指示を行う。授業後に作成する「振り返りシート」を翌週の授業で返却するので、教員のコメントを参照して復習すること。

授業計画および内容等

第1回	リーガル・コミュニケーションの基礎	法務実務においてコミュニケーション技術が必要になる場面、法律実務家が修得すべきコミュニケーション技術の基本、対話のロールプレイ
第2回	当事者と弁護士との紛争事例	コミュニケーションへの配慮を欠いたことに伴う弁護士と当事者との紛争事例（懲戒請求、損害賠償請求）
第3回	法文書作成①	法文書の種類と機能、法文書作成の基礎

第4回	法文書作成②	当事者又は裁判所を説得するための文書（通知文書、主張書面等）と事案に対する結論を提示する文書（鑑定意見書、判決書等）の相違
第5回	訴訟手続におけるコミュニケーション	訴訟におけるコミュニケーション全般、尋問技術
第6回	面接技法	法律家と紛争当事者との面接場面における注意事項
第7回	相談技法①	初回法律相談における面接技法（スキルプレイ、ロールプレイ）
第8回	相談技法②	継続相談又は受任事件における面接での注意点（スキルプレイ、ロールプレイ） 事実の聴取方法とその整理
第9回	相談技法③	模擬法律相談（ロールプレイ）
第10回	交渉技法①	弁護士と相手方当事者との交渉場面（示談交渉、取引交渉）、交渉の捉え方（分配型交渉と統合型交渉）
第11回	交渉技法②	相手方当事者との交渉におけるコミュニケーション技法
第12回	交渉技法③	模擬交渉（ロールプレイ）
第13回	法文書作成③	当事者の合意内容を明確にするための文書（取引契約書、和解契約書、和解調書等）作成のポイント
第14回	法文書作成④	事例演習（架空事案を前提にした法文書の作成）
第15回	刑事事件	弁護士と被疑者・被告人のコミュニケーション、ロールプレイ（模擬接見）
関連 URL		
備考欄		
3年前期必修科目である民事実務演習との連携を図ることにより、本科目の学習効果を高めたい。そのため、民事実務演習（特に民事模擬裁判）の進行を考慮して、授業計画記載の進行の順序を変更する可能性がある。		